

インドネシア小学生のための津波パンフレットの作成と防災教育

Making of TSUNAMI pamphlet for school children in Indonesia and disaster prevention education

柴山 元彦 [1]; Dicky Muslim[2]; 香川 直子 [3]; 芝川 明義 [4]; 平岡 由次 [5]

Motohiko Shibayama[1]; Muslim Dicky[2]; Naoko Kagawa[3]; Akiyoshi Shibakawa[4]; Yoshitsugu Hiraoka[5]

[1] 自環研オ; [2] パジャジャラン大; [3] 自然環境オフィ; [4] 大阪府立花園高等学校; [5] 生野高聾

[1] Natural Envi.Ins.; [2] Padjadjaran Univ; [3] Natural Environmental Ins.; [4] Osaka Prefectural Hanazono Senior High School;

[5] IKUNO High School for the Deaf

2005年12月26日、スマトラ沖(インドネシア)で発生した大地震は、これまでにない津波災害を引き起こした。この津波被害に対して国際社会をはじめ多くの団体が災害援助をおこなっている。災害援助ではハード面の支援のほかソフト面の支援も必要である。その1つでわる防災教育の必要性が被害を受けた国々では直後には語られたが、1年後の現在でもあまりそのことは進展していない。

本研究は、この津波被害にはあまりあわなかったが、将来その可能性が高いスマトラ周辺地域であるジャワ島(インドネシア)の子供に対して防災教育をどのようにすればよいかを考えたものである。小学生を対象にしたのは津波が発生する期間が長いこともあって、これからの人生が長い小学生に対して防災教育をおこなうことが有効であると考えからである。

小学生に対する防災教育の1つとして津波防災用のポスターとパンフレットを作成することにした。ポスターは各学校に掲示し、パンフレットは6年生全員に配布予定である。配布地域は上記のようにジャワ島のインド洋岸周辺にある小学校で、約400校の予定である。各学校用ポスター(A2)3枚とパンフレット(A4両面)を6年生の人数分(16000枚)を作成し、配布する。配布は、パジャジャラン大学の学生がおこなってくれる予定である。

インドネシアでは、パンフレットなどの印刷物を各子供に配布することはこれまでになかったことであるため、本配布が初めての試みになる。

現在、パンフレットとポスターの見本が完成し、現地と内容の調整中である。本年の新学期には子供たちに配布する予定で作業が進行している。

このパンフレットやポスターは4コマ漫画で理解できるように構成されている。このように漫画を利用することは、大人にとっても理解が容易におこなわれる(養老・牧野 2005)といわれているため、このパンフやポスターは子供のみならず大人に対しても効果があると考えられる。